

第15回広陵町地域公共交通活性化協議会 議事要旨

日 時：平成29年3月30日（水）14：00～15：15

場 所：広陵町役場3階大会議室

出席者：山村会長、東洋一委員、笹井委員、東秀行委員、木村委員（代理：中井様）、折原委員（代理：川村様）、平塚委員、霜永委員、山野委員（代理：上浪様）、山口委員、後藤委員（代理：米田様）、吾妻委員、島田委員（代理：鍬田様）、古田委員、吉田委員

欠席者：福寫委員、吉崎委員

1 開会進行（事務局）

2 会長あいさつ

みなさんこんにちは。お忙しい中、第15回広陵町地域公共交通活性化協議会に参加いただき、お礼申し上げます。広陵元気号の本格運行を開始してから半年が経った。それまで、無料で運行していたが、有料になると利用者減少している。これからは、国や県、全ての公共交通に関わる機関と連携して、地域公共交通を維持していかなければならない。また、町民や利用者の方にも地域公共交通の大切さを認識してもらわなければならない。

本日は、これまでの経緯も踏まえて、慎重審議、さまざまなご意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

3 議題

（1）平成28年度事業報告について

【事務局説明】

資料1、2、3、4、5、6、7の説明。

【質疑応答】

○委員

無料時と有料時を比較して、どの年齢層の利用が減っているのか。

○事務局

乗降調査では、年齢層の調査までは行っていない。大和広陵高校までの乗り入れを行っているので高校生の利用もあるが、主な利用は高齢者の方が多い。

○委員

利用者が減っているという話だが、路線バスでも12～2月は利用者が減る。本当に比較するなら、昨年と今年の同一時期で見る必要がある。

○会長

寒い時期になると外出を控えがちになるということなのか。

○委員

他市町村で無料から有料にした際は、6～7割まで利用者が減ることが多い。広陵町の場合は、顕著に減っていない。

○会長

無料の時は健康な人が乗るのを躊躇うという声や、有料になると乗らないという声も上がっていた。

○委員

運転免許を返納された方に優待するなど、町からも施策の確立と推進をしてもらいたい。

○事務局

来年度に高齢者の方で運転免許を自主返納する取り組みの促進として、回数券等を配布するなどを検討している。また、自主返納とは別に、買い物ポイントとして、町内の事業者と連携した取り組みも検討している。

(2) 平成29年度歳入歳出予算（案）について

【事務局説明】

資料8の説明。

(3) 平成29年度事業計画（案）について

【事務局説明】

資料9の説明。

【質疑応答】

○委員

買い物ポイントの導入については協議が必要になってくるとは思うが、積極的に進めてもらいたい。また、商工会も香芝警察署と連携して、運転免許の自主返納を促進しているところである。

○委員

今年の2月1日現在、香芝警察署管内での協力店舗は26となっている。これからも協力店舗を増やしていきたいと考えている。

○委員

ナビタイムへの情報提供とは具体的にどうしているのか。また、応援サポーターの活用を検討しているということだが、町側でSNSによる情報発信を強化する必要もあるのでは。

○事務局

奈良県でも取り組みを進めているが、ナビタイムやヤフー等に情報提供して、広陵元気号を検索対象とする取り組みである。また、SNSによる情報発信につ

いては、町全体が一丸となって意識改革をする必要があると感じる。

○委員

有料運行になって6ヶ月、地域によってさまざまな意見がある中、利用しやすいルート編成にすることは並大抵の努力ではできない。中央幹線の利用が多いという中で、中央幹線と支線の乗り換えが明快に分かれれば、利用がさらに増えるのではないか。

○会長

近隣の大和高田市や香芝市で運行しているコミバスとの乗り継ぎはできないものか。

○委員

地域と地域のコミバスの乗り継ぎの事例はない。運転免許自主返納者へのインセンティブを検討しているとのことだが、インセンティブよりも返納した際の移動手段の確保が重要になってくる。また、バス停ごとの利用者を比較する際は、その地域にどれくらいの人口がいて利用しているかという指標を用いる必要があると感じる。そして、利用を促進する取り組みとして、一定の周期で利用が多いバス停を表彰して、地域の方のバスだと意識付けしている自治体もある。

○委員

先日の奈良県主催の研修会にて、広陵町における取組事例を紹介いただき厚くお礼申し上げます。平成29年度における取り組みとして健康づくり部局との連携をしていくとのことだが、スマートウェルネスの考えからも非常に期待している。計画を作って、今後、利用環境整備を促進していく必要も出てくると思うが、県でもバスロケーションシステムや上屋、ベンチの設置に関する補助金を確保しているので、積極的に活用いただきたい。また、小学生を対象としたモビリティ・マネジメントを進めていくとのことであるが、庁内の職員を対象としたモビリティ・マネジメントも必要ではないかと感じる。そして、利用状況を調査する際は、顕在的な需要だけではなく、潜在的な需要を掘り起こせるような調査が重要となってくる。

○事務局

バスロケーションシステムの必要性は感じている。また、職員を対象としたモビリティ・マネジメントについても、情報共有させてもらいたい。

○委員

元気号の利用者は高齢者が多いとのことだが、何を目的に外出しているのかを調査する必要があると感じる。町内で行っている祭りや行事を知ってもらい、外

出するきっかけとするとともに、町外へも情報発信してもらいたい。

4 その他

○事務局

次回の会議は、6月頃に開催する予定です。

○会長

本日は、お忙しい中、ありがとうございました。